

2. 流域および河川の自然環境

2.1 流域の自然環境

物部川は高知県香美市白髪山(標高1,770m)に源を発する。流域の約88%が山地で、年間2,800mm程度と全国平均を上回る多雨と温暖な気候、豊かな土壌に恵まれ、森林の生育が非常によく、古来より用材の産地として知られてきた。

流域の地形は、上流から下流に向かって山地から扇状地へと移行するが、河床勾配が急なまま海に至るため、感潮域は河口から僅か0.7km程度と非常に短い。土地利用はスギ・ヒノキ人工林が分布する山地から、市街地や農地が広がる低地へと変化する。源流部には剣山国定公園が存在し、国の天然記念物であるニホンカモシカ等が生息する良好な自然が存在する。また、V字型渓谷を呈する河道沿いには、多くの景勝地が存在する。下流の扇状地に広がる香長平野では豊かな水を利用して、全国でもめずらしい二毛作が行われていた。

物部川流域は山林と、市街地・農地の広がる沖積層の平野部に大きく2区分されるが、自然環境から観た流域区分としては、流域の地質、地形と、気候に依存する潜在植生分布、さらに土地利用等に依存する現存植生分布を参考に、上流域、中流域及び下流域の3つに区分される。



2.1.1 上流域

スギ・ヒノキ林だけでなく、落葉樹林や最上流部にブナ林、シイノキ林等が分布する、谷壁の傾斜が急な中起伏山地～大起伏山地からなる区域を上流域とする。河川については、永瀬ダムより上流を上流区間とする。

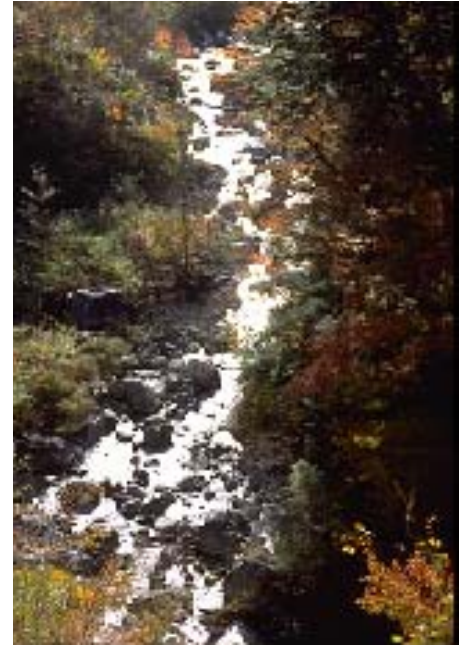


図 2.1.2 上流域

2.1.2 中流域

河道付近の段丘と、スギ・ヒノキ林、一部に落葉樹林の分布する小起伏山地及び台地からなる区域を中流域とする。河川については、合同堰から永瀬ダムの間のダムの湛水部を主とする区間を中流区間とする。



図 2.1.3 中流域

2.1.3 下流域

市街地や農地が広がる扇状地性低地からなる区域を下流域とする。河川については、扇状地性低地となり、流路が蛇行し、瀬淵、河原などを形成する合同堰から下流を下流区間とする。



図 2.1.4 下流域

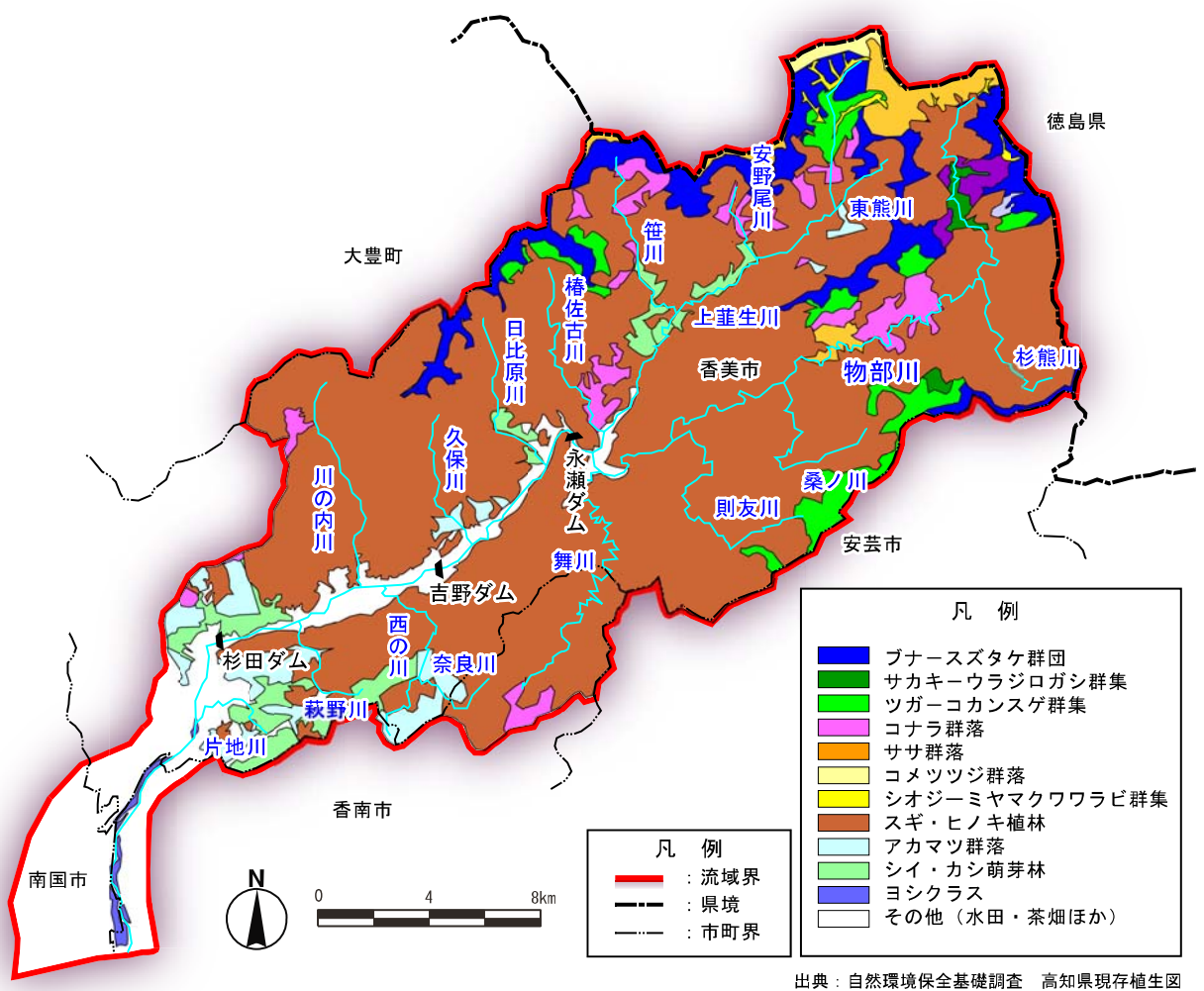
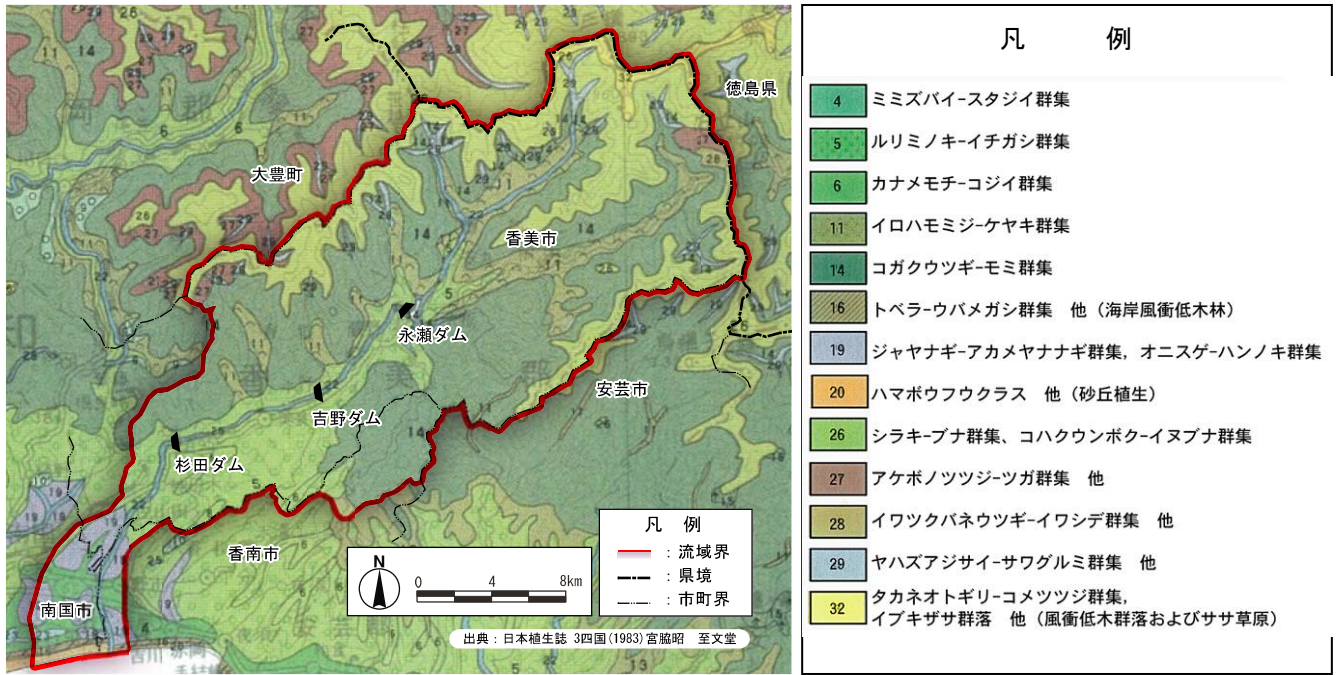


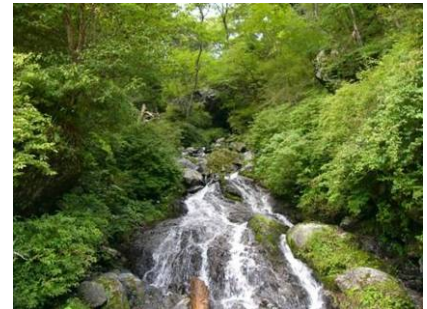
図 2.1.6 物部川流域の現存植生

2.2 河川の自然環境

2.2.1 上流域

物部川源流部は剣山国定公園に指定されており、スギ・ヒノキ林だけでなく、落葉樹林や最上流部にブナ林、シイノキ林等が分布している。源流部は清澄な水質が維持される溪流を呈している。

急峻な山林には国の天然記念物であるニホンカモシカ等が生息し、哺乳類相が豊かである。河川においても、水中で5～8年を過ごし、水際のフキやコケ類に産卵するムカシトンボや、魚類や水生昆虫を餌とするカワセミ等の清澄な溪流を代表する生物が生息している。また、標高 800m 以上の溪流では、オオダイガハラサンショウウオやハコネサンショウウオ等が森林と水域を移動しながら生息している。



源流部（白髪谷）の流れ



ムカシトンボ

出典：「トンボのすべて」 トンボ出版



カワセミ



オオダイガハラサンショウウオ

水生生物は、永瀬ダムより上流の区間で、石礫底の瀬を中心に清水性種がみられる。魚類ではアマゴ、タカハヤ等が確認されている。



上流区間の状況



アマゴ

2.2.2 中流域

中流域にはスギ・ヒノキ林と落葉樹林が分布し、ヒヨドリ等の鳥類、ニホンザル等の哺乳類が生息する。シイ・アラカシ・コナラを主とする雑木林にはオオムラサキ等が見られるが、薪炭の需要が減って人工林に変化している。河道沿いには河岸段丘が形成されており、棚田が広がる。

永瀬ダム、吉野ダム、杉田ダムとダムが連続するため、大半がダムの湛水部となり、広大な水面と緩やかな流れを形成している。その一方で、永瀬ダム～吉野ダムの間には無水区間が存在する。ダム区間は水生生物の種類数も少なく、水位変動等が影響していると考えられる。魚類では緩やかな流れを好むコイ、カワムツの他、オイカワ、アユ、ウグイ、アマゴなどが生息している。特にアユ、コイなどは遊漁用に放流が行われている。ダムによる物理的な障害のため、回遊魚が下流域に比べて減少の傾向にある。



中流区間の状況



ヒヨドリ



オオムラサキ



コイ



オイカワ

2.2.3 下流域

下流域には合同堰と統合堰という2つの堰が存在し、その間に湛水部が存在する。この区間は、土砂の堆積により低水敷が発達して立地がやや安定している。そのため、自然裸地が少なくなり、ツルヨシ等のまとまった草地に加え、低木林やアカメヤナギ・エノキ等の高木林も発達している。こうした場所には林冠・林縁・林床など多様な環境が存在し、多様な昆虫類が棲み分けて生息している。さらに、丈の高い植生が多く、人目に触れにくいことから、タヌキ等の哺乳類の移動路や休息地等に利用されている。また、統合堰の上流側には、高木から成る河畔林が存在し、サギ類の集団ねぐらとして利用され、魚付き林としても機能している。

河川敷の草地や、低木林と草地が混じった環境には、ホオジロ、アオジ等の鳥類がみられる。また、堰の湛水部はカモ類等の休息場として利用されている。

統合堰より上流は純淡水魚が主体となり、下流でほとんどみられなかったカワヨシノボリ等が多く確認される。水生生物は礫間に巣を作る造網型のヒゲナガカワトビケラ等の流水性の昆虫が生息する。



ツルヨシ



アカメヤナギ



アオジ



ヒラタクワガタ



カワヨシノボリ



オシドリ

統合堰より下流では、交互砂州が形成されている。流水による攪乱や乾湿の差が大きい環境を反映し、代表的な植生はカワラヨモギ、ツルヨシ等の洪水に適応した種である。こうした草地の所々にノイバラ等の低木林が混じり、ツグミ等の越冬地となっている。高水敷は公園やグラウンド、親水施設などの人為的改変地を多く含む。



下流区間の状況

背丈の低い草地や高水敷のグラウンドにはヒバリやスズメが生息し、こうした小動物を餌とする猛禽類の姿が見られることもある。また、戸板島橋の橋梁下部は、イワツバメの県下でも有数の規模の集団繁殖地となっている。

魚類では、アユ、ヌマチチブなどの両側回遊魚が物部川橋付近まで遡上している。連続した瀬・淵環境が存在し、瀬はアユの産卵場となっている。礫底を好むアカザ、カマキリ等の魚類、チラカゲロウ等の底生生物の重要種も生息している。

河道の一部には湧水・伏流水に起因するワンド、緩流域が存在し、トンボ類やカエル類等が生息している。

カワヂシャ、ミゾコウジュなど、水辺に新たに作られた裸地を生育地とする重要種が確認されている。



カワラヨモギ



ツグミ



アユ



カマキリ



ミゾコウジュ



ギンヤンマ

出典：「トンボのすべて」 トンボ出版

河口部は砂礫地、草地、湿地、灌木地、ワンドなど多様な環境が存在する。感潮域は0.7km付近までであるが干潟は少ない。河口部一帯は、シギ・チドリ等の渡り鳥の中継地、カモ類の越冬地、猛禽類の採餌地となっている。

河口付近には、砂礫地が存在し、コアジサシやコチドリ等の集団繁殖地が確認されている。流水部の水際や砂州上には上流と同様にツルヨシ、ヨモギ等の草本類や、ノイバラ等の低木林が成立し、多様な植生が細かいモザイク状に組み合わせられている。また、河口付近に自然に形成された湛水部にはヨシの生育する湿地が発達し、オオヨシキリやセッカ等の生息地となっている。この湿地には重要種であるタコノアシの群生地も存在する。

感潮区間であることから、水域にはボラ、マハゼ等の河川と海域を行き来する汽水・海水魚が生息する。回遊魚であるカワアナゴやボウズハゼ、汽水域の干潟等に生息するアシシロハゼ、カワスナガニ、トビアシヒライソガニモドキといった重要種も確認されている。淵などの止水・緩流部は魚食性のミサゴ等の猛禽類の採餌場となっている。



河口部



コアジサシ



キアシシギ



オオヨシキリ



ボラ



ミサゴ

2.2.4 物部川における重要な種

河川水辺の国勢調査の調査結果をもとに、学術上又は希少性等の観点から「重要種」を抽出した。選定に当たっては、「文化財保護法」、「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」等の法律で定められた種、及び環境省のレッドデータブックや地方版のレッドデータブック(高知県)等の掲載種とした。

重要種の選定根拠

- 1) 「文化財保護法」における国の指定天然記念物
- 2) 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種
および緊急指定種
- 3) 環境省編「日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック」
(2000：植物および爬虫類・両生類、2002：鳥類および哺乳類、
2003：汽水・淡水魚、2005：陸・淡水貝類、2006：クモ形類・甲殻類等)
- 4) 環境庁編「レッドリスト」(2000：無脊椎動物)
- 5) 高知県編「高知県の絶滅のおそれのある野生生物 高知県レッドデータブック(植物編)」(2000)
「高知県の絶滅のおそれのある野生生物 高知県レッドデータブック(動物編)」(2002)

表 2.2.1 植物重要種一覧

No	科名	種名	重要種			
			天然記念物	種の保存法	環境省RDB	高知県RDB
1	クスノキ科	クスノキ	注1			
2	ユキノシタ科	タコノアシ			VU	高準絶
3	イイギリ科	クスドイゲ			注2	
4	シソ科	レモンエゴマ				高準絶
5		ミゾコウジュ			NT	高II類
6	ゴマノハグサ科	カワヂシャ			NT	高準絶
7	ハマウツボ科	ハマウツボ				高絶滅

注1) 「特定種一覧表」ではクスノキ(土佐山田町天然記念物：神母神社の境内の個体指定「神母ノ木の大楠」)で記載されている。
注2) クスドイゲについて、環境省RDBではコバノクスドイゲ(カテゴリーはDD)で記載。

表 2.2.2 魚類重要種一覧

No	科名	種名	重要種			
			天然記念物	種の保存法	環境省RDB	高知県RDB
1	ドジョウ科	シマドジョウ				注1
2	アカザ科	アカザ			VU	高IB類
3	メダカ科	メダカ			VU	高IB類
4	カジカ科	カマキリ				高II類
5	ハゼ科	カワアナゴ				高準絶
6		ボウズハゼ				高準絶
7		スミウキゴリ				高準絶
8		アシシロハゼ				高IB類

注1) シマドジョウについて、高知県RDBで記載されているものはシマドジョウ2倍体性種、シマドジョウ4倍体性種(いずれも高II類)

表 2.2.3 底生動物重要種一覧

No	科名	種名	重要種			
			天然 記念物	種の 保存法	環境省 RDB	高知県 RDB
1	モノアラガイ科	モノアラガイ			NT	
2	イワガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ				高不足
3	スナガニ科	カワスナガニ			DD	高準絶
4	チラカゲロウ科	チラカゲロウ				高準絶
5	ヤンマ科	ギンヤンマ				高準絶
6		コシボソヤンマ				高II類
7	サナエトンボ科	キイロサナエ				高準絶
8		アオサナエ				高準絶
9		オジロサナエ				高準絶
10	エゾトンボ科	ハネビロエゾトンボ				高準絶
11		タカネトンボ				高準絶

表 2.2.4 鳥類重要種一覧

No	科名	種名	重要種			
			天然 記念物	種の 保存法	環境省 RDB	高知県 RDB
1	サギ科	ササゴイ				高準絶
2		チュウサギ			NT	高準絶
3	カモ科	ツクシガモ			EN	
4		オシドリ				高準絶
5		トモエガモ			VU	高IB類
6		オナガガモ				高II類
7		ウミアイサ				高IB類
8	タカ科	ミサゴ			NT	高IB類
9		ハチクマ			NT	高IB類
10		オオタカ		希少	VU	高IA類
11		ハイタカ			NT	高II類
12		ノスリ				高II類
13		サシバ				高II類
14		チュウヒ			VU	高IB類
15	ハヤブサ科	ハヤブサ		希少	VU	高IA類
16	チドリ科	タゲリ				高準絶
17	セイタカシギ科	セイタカシギ			EN	高準絶
18	カワセミ科	ヤマセミ				高準絶
19		カワセミ				高準絶
20	ツバメ科	コシアカツバメ				高準絶
21	セキレイ科	ピンズイ				高不足
22	ツグミ科	ルリビタキ				高不足
23		トラツグミ				高準絶
24	ウグイス科	オオヨシキリ				高準絶
25	ホオジロ科	ホオアカ				高II類
26		カシラダカ				高準絶
27		アオジ				高不足
28		オオジュリン				高準絶
29	アトリ科	イカル				高II類

表 2.2.5 陸上昆虫類等重要種一覧

No	科名	種名	重要種				
			天然 記念物	種の 保存法	環境省 RDB	環境庁 RL	高知県 RDB
1	ホウシグモ科	ドウシグモ			DD	DD	
2	イトトンボ科	アジアイトトンボ					高準絶
3	ヤンマ科	ギンヤンマ					高準絶
4		カトリヤンマ					高準絶
5	コオロギ科	カワラスズ					高準絶
6	バッタ科	カワラバッタ					高準絶
7	ハナカメムシ科	ズイムシハナカメムシ				CR+EN	
8	オサムシ科	キアシマルガタゴミムシ					高不足
9		フタモンクビナガゴミムシ					高不足
10		クロズホナシゴミムシ					高不足
11		ウミホソチビゴミムシ				NT	高IA類
12		カラカネゴモクムシ					高不足
13		ウミズギワゴミムシ					高準絶
14		キュウシュウツヤゴモクムシ					高不足
15	ハンミョウ科	コハンミョウ					高準絶
16	クワガタムシ科	ヒラタクワガタ					高準絶
17	タマムシ科	ヤマトタマムシ					高準絶
18	コメツキムシ科	トサヒメサビキコリ					高準絶
19	カミキリムシ科	クワカミキリ					高準絶

表 2.2.6 両生類・爬虫類・哺乳類重要種一覧

No	科名	種名	重要種			
			天然 記念物	種の 保存法	環境省 RDB	高知県 RDB
1	アカガエル科	トノサマガエル				高準絶
2	スッポン科	スッポン			DD	高不足

■重要種凡例一覧

○天然記念物：「文化財保護法」（昭和 25 年法律第 214 号）

特天：特別天然記念物 天：天然記念物

○種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年法律第 75 号）

希少：国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種

○環境省 RDB：「日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック」（環境省, 2000～2006）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類

VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群

○：環境庁 RL：「環境庁報道発表資料 レッドリスト 無脊椎動物」（環境庁, 2000）

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類

VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群

○：高知県 RDB：「高知県の絶滅のおそれのある野生生物 高知県レッドデータブック（植物編）、（動物編）」

（高知県文化環境部環境保全課, 2000～2002）

高絶滅：絶滅 高野絶：野生絶滅 高 IA 類：絶滅危惧 IA 類 高 IB 類：絶滅危惧 IB 類

高 II 類：絶滅危惧 II 類 高準絶：準絶滅危惧 高不足：情報不足

2.2.5 物部川の代表種

環境区分と河川環境を特徴づける種（陸域）

環境区分	調査項目	上位性	典型性	移動性
下流域	河口周辺の自然裸地	植物	ハマウツボ	
	河口付近の湿地 (浮葉植物、水生～抽水植物)	植物	ヨシ タコノアシ	
		鳥類	サギ類 カモ類 カワセミ オオヨシキリ	
	水際の湿地 (水生～抽水植物、湿性植物)	植物	ツルヨシ タコノアシ カワヂシャ	
		鳥類	サギ類	
	自然裸地 (河原植物)	植物	カワラヨモギ ミゾコウジュ	
		鳥類	コアシサシ*	
		陸上昆虫	コチドリ イカルチドリ シロチドリ カワラバッタ	
	乾性高茎草本	植物	オギ ススキ	
		鳥類	セッカ ホオジロ アオジ	
		両爬哺乳	カナヘビ カヤネズミ	
	乾性低茎草本、人工草地、畑	植物	ヨモギ	
		鳥類	ヒバリ	
		両爬哺乳	アオダイショウ	
	低木林 (ヤナギ類、低木林)	植物	ノイバラ	
		鳥類	ツグミ カワラヒワ	
	高木林 (高木河畔林、竹林、果樹園・畑)	植物	エノキ アカメヤナギ	
		鳥類	ムクドリ イカル	
		両爬哺乳	タヌキ	
		陸上昆虫	ヒラタクワガタ	
水田	両爬哺乳	ニホンアマガエル トノサマガエル		
人工構造物 (戸板島橋)	鳥類	イワツバメ		
中流域	植林地	植物	スギ ヒノキ	
		鳥類	ヒヨドリ キジバト	
上流域	植林地	植物	スギ ヒノキ	
		鳥類	ヒヨドリ キジバト	
	広葉樹林	鳥類	ブッポウソウ*	
	両爬哺乳	ニホンカモシカ*	オオダイガハラ サンショウウオ* ハコネサンショウウオ*	

注) _____ : 重要種

_____ * : 過去の河川水辺の国勢調査、自然環境保全基礎調査において確認された重要種

環境区分と河川環境を特徴づける種（水域）

環境区分		調査対象	上位性	典型性	移動性
下流域	感潮域	干潟	魚類	アシシロハゼ	
			底生	トゲアシヒライノガニ カワスナガニ	
			鳥類	イソシギ キアシシギ	
	感潮域	河口閉塞による 湛水部	魚類	ボラ マハゼ	カワアナゴ ボウズハゼ
			鳥類	ミサゴ カモ類	
	淡水域	瀬	魚類	カワヨシノボリ アカザ	アユ カマキリ
			底生	ヒゲナガカワ トビケラ チラカゲロウ	
			鳥類	ササゴイ	
		瀬、堰の湛水域	魚類	ウグイ オイカワ	ヌマチチブ
			底生	キイロカワカゲロウ	
鳥類			ミサゴ カモ類 カイツブリ カワウ		
淡水域		ワンド・よどみ (湧水・伏流水含む)	魚類	メダカ シマドジョウ	
			底生	モノアラガイ	
			鳥類	カワセミ	
			両爬 哺乳	トノサマガエル	
	陸上 昆虫		アジアイトトンボ ギンヤンマ		
中流域	ダム湛水域	魚類	コイ カワムツ		
上流域	溪流	魚類	アマゴ タカハヤ		
		底生 陸上 昆虫	ムカシトンボ*		
		鳥類	ヤマセミ* カワセミ*		
		両爬 哺乳		オオダイガハラ サンショウウオ* ハコネサンショウウオ*	

注) _____ : 重要種

_____ * : 過去の河川水辺の国勢調査、自然環境保全基礎調査において確認された重要種

■ 凡例一覧

- 上位性：物部川流域に生息・生育する生物の食物連鎖において、より高次の捕食者である猛禽類や肉食性の鳥類、雑食性の哺乳類等が該当する。これらの種の存在は、多様で豊かな自然を指標すると考えられる。
- 典型性：物部川を特徴づける河川環境に依存する動植物であり、それらの種の保全を追及する事で物部川における河川環境の保全が可能になると想定される種が該当する。
- 移動性：河川と海域を行き来する回遊性の魚類やカニ類等が該当する。これらの種の存在は、物部川における河川の連続性(上下流の連続性、支川と本川との連続性等)を指標すると考えられる。

2.3 特徴的な河川景観や文化財等

2.3.1 特徴的な河川景観

物部川の上流域は山地の急峻な地形からなる美しい渓谷の景観を有し、下流域には江戸初期に野中兼山が築いた山田堰によって肥沃な土地となった高知県最大の香長平野が広がっている。太平洋に面した河口付近では、河川敷での大凧揚げ大会や野外ステージの吉川村天然色劇場での定期的なイベントなど、人々が川と親しむ光景が見られる。

(1) 別府峡

源流域に位置する別府峡谷は清流と奇岩が連続する峡谷で、紅葉の名所として知られている。近辺には天を突くような巨岩の屏風岩、アイノウ釜、高知県内初の木製車道橋の紅香橋やネジレ滝などがあり、峡谷に映える景観となっている。



アイノウ釜

(2) 西熊溪谷

上韮生川上流にある溪谷で、三嶺や白髪山登山の入り口になっている。淡いピンク色の山桜が咲き乱れる春、初夏の目の覚めるような新緑、燃えるような紅葉が川面に映える秋、白く雪化粧をした冬など、四季折々で溪谷の美を表現している。



西熊溪谷

(3) ダム湖

永瀬ダム、吉野ダムなどのダムの上流には豊かな水を湛えるダム湖が広がっている。周辺の森を映した静かな水面の深い緑が美しい。



永瀬ダム上流

(4) 轟の滝

物部川の支流・日比原川の溪谷にあり、落差 82m にわたって 3 段に流れ落ちる瀑布である。滝の周辺は春の桜、夏の深緑、また秋は紅葉の景勝地としてにぎわっている。県の天然記念物及び名勝指定、「日本の滝 100 選」にも選ばれている。



轟の滝

(5) 統合堰（町田堰）

下流の6堰を統合して昭和41年に完成した。夏場には水遊びやバーベキュー、キャンプ等で人々が集まる場となっている。



統合堰

(6) 兼山の三又

江戸時代に土佐藩の家老として、新田開発に尽力した野中兼山が開いた用水路。昔ながらの石積みを残しながら、現在でも地域の農業用水として使われている。川べりには散策路があり、春には満開の桜の下、散歩やハイキングが行われている。



兼山の三又

(7) 香長平野

物部川下流に広がる高知県最大の穀倉地帯である。両岸には物部川の水を利用した美しい田園風景が広がっている。



香長平野

(8) 物部川で釣りを楽しむ人々

財団法人・日本釣り振興会によって平成14年に釣り人が選ぶ「天然アユののぼる100名川」に選ばれており、アユ釣りの名所として知られている。



アユ釣りを楽しむ人々（6.0 km 付近）

(9) 桜つつみ公園・天然色劇場

平成7年、物部川河口の東岸に完成した公園である。桜つつみ公園は前面に芝生が敷かれ、季節の花々とともに市民の憩いの場として親しまれている。公園に隣接した吉川村天然色劇場は四国一の規模を誇る野外劇場であり、コンサートやイベントなどが多彩に行われている。



桜つつみ公園

2.3.2 物部川流域の文化財、歴史

物部川流域河口部に広がる香長平野では、早くから定住が進み、弥生時代からの遺跡や古墳、江戸時代に建立された仏閣等歴史的建造物等が各地に残されている。田村遺跡にみられるように、弥生時代には既に稲作が行われていたと言われ、古くから物部川を水源とした灌漑用水の受益地であった。

物部川、物部村などに残る物部の呼称は飛鳥時代の物部氏の勢力の名残ともいわれ、香美市内には同氏の氏神を祭る若一王子宮がある。また、古代の土佐国府もおかれ、平安初期には歌人として知られる紀貫之が国司として留まり、香長平野は土佐の政治・文化の中心となった。そのため、都への官道（南海道）が開かれて往来も盛んであった。

鎌倉時代から室町時代末期（13世紀～16世紀中期）のいわゆる戦国時代には、長宗我部元親が天正年間（1580年代）に岡豊城（南国市）に居城して土佐を統一した。その後、山内氏による藩政が執り行われた。

江戸時代の承応元年（1652年）、後免地区を中心に土佐藩家老職の野中兼山が用水路を建設し、一切の課税を免じて産業の振興を図り、今日の基礎を作った。用水路の建設は農業革命をもたらすとともに、舟運にも利用され、物部上流の槇山、葦生方面の山間部より木材・薪炭・穀物を運び、高知城下の商品を運送する役割を果たした。この舟運に関連して、下流域に位置する神母ノ木が宿場町として繁栄した。周辺の山田、野市等とともに新田の開発が盛んになり、江戸時代を通じて繁栄した。

(1) 田村遺跡（南国市）

高知を代表する遺跡のひとつで、古墳は小丘陵の山上、山麓に存在し80基に及ぶ。これまでに弥生時代の竪穴住居や堀立柱建物、水田など、大規模な集落跡が確認されている。



田村遺跡

(2) 山田堰（香美市）

江戸時代前期に土佐藩宰相、野中兼山（1615～1663年）は旧川に堤防を築き、山田堰を構築して取水を可能にした。この大事業により洪水から香長平野が守られるとともに、農作物の生産性が飛躍的に高まり、高知県最大の穀倉地帯となった。昭和48年、上流800mに物部合同堰が完成したことにより、山田堰は350年に渡るその役目を終え、一部が残されて記念公園として整備された。



山田堰跡

(3) 神母神社 楠の大木 (香美市)

高さ 15m、枝張り 19m、根回り 6m、樹齢 500 年以上と推定される大楠である。「神母」とは、稲毛・池などの水の神、農耕神を指すといわれ、神母ノ木の地名の起源となっていると思われる。神母ノ木の集落が形成されたのは近世初期の野中兼山により山田堰が造られた頃にあたる。



神母神社の大楠

(4) 堰留神社 (香美市)

戸板島村の北端にある大岩によって、物部川の洪水が堰き止められたことから、洪水の被害を免れた人々が、その岩を神と崇め、磐座として祀ったのが始まりと伝えられている。文化 12 (1815) 年 7 月の洪水により社殿が流失し、同年 10 月に再興されたという記録が残っている。現在もほぼ当時のまま残っており、場所も堤内法尻部からすぐの所にあり、堤天からは神社参拝のための坂路も設置されている。



堰留神社

(5) 深淵神社 (香南市)

深淵にある土地神 (深淵水夜禮花命) を祀った神社である。江戸時代の初め頃と明治 25 年の二度の洪水により、社地の流出と移転を繰り返して、現在の社地に移った。



深淵神社

(6) 下井溝改築記念碑 (香南市)

下井溝は深淵神社の社地が十善寺にあったころ、その東岸を南へ流れていた。明治 25 年 7 月に暴風雨による大洪水が起こり、深淵神社の社地、その前後の田畑及び下井溝の水越しが 102 間 (約 184.5m) が崩壊流出した。その年の 12 月から掘り変えが行われ、この下井溝掘り変え工事を記念した碑が建立された。



下井溝改築記念碑

2.3.3 物部川沿川の観光、イベント

物部川沿川では、高水敷を中心に、花火大会や凧揚げ大会等の地域の祭り、イベントが開催され、観光客も多く集まっている。

(1) のいち花火大会（香南市）

香南市野市町の夏の風物詩であり、夜空を彩る花火が物部の川面に映し出される。



のいち花火大会

(2) 旧正月凧揚げ大会（香南市）

物部川河川敷で行われる凧揚げ大会で、冬の風物詩となっている。大会最大の見物はなんとといっても日本一の大凧で、100 畳（胴の長さ 16.5m）もの大凧を総勢 50 人あまりで引く。土佐凧は軽くて丈夫で飛翔力があり、日本の郷土凧の中でも傑作と言われている。



旧正月凧揚げ大会

(3) 港まつり（香南市）

昭和 47 年から吉川漁港^{よしかわ}を核として産業経済の発展と村民福祉の向上を祈願し、健康で明るく住みよい村づくりを目指して行われている祭りである。物部川河口の天然色劇場や吉川漁港を会場に、神事や餅投げ、鮎・うなぎつかみ大会、そして開港を記念して公募した吉川音頭、太鼓獅子舞、花火大会漁船パレードなど盛りだくさんの催しが開催される。



港まつり

(4) えんこう祭（南国市）

古くから土佐では、水難事故防止のため「こんな（夕暮れや大水の）時に川へ行きよったら猿候（河童）に川へ引っぱり込まれるぞ。」などと親が子供に警告していた。水難除けを願い、6月第1土曜日に前浜後川筋で行われる。



えんこう祭り

(5) 奥物部湖湖水祭（香美市）

毎年8月に開催され、永瀬ダムの建設でできた奥物部湖に帰省者ら約1万人が集まる大きなイベントである。5000余りの灯籠、花火が湖水を色鮮やかに染める。湖水祭は、永瀬ダム建設工事犠牲者の霊を慰め、湖底に沈んだ集落をしのぶ慰霊祭の一面を持つ。



湖面に浮かべられた灯籠

(6) 物部川ジャンボリー（香美市）

平成15年から毎年4月に開催されている。環境問題を身近に考えようと、河川清掃に始まり、ヨシから作った葦舟のレース、特設会場での音楽やダンス、物品販売が行われるイベントである。



物部川ジャンボリー

(7) アンパンマンミュージアム（香美市）

アンパンマンの生みの親で、香美市（旧香北町）生まれのやなせたかし氏の多彩な創作世界を収集・研究・公開することを柱に、中核的な文化施設として設立された。

「愛と正義と勇気」というテーマのもと、住民の文化創作活動を支援し、また漫画や絵本・詩など、幅広く芸術文化を発信していく拠点である。



アンパンマンミュージアム

(8) 龍河洞（香美市）

全国有数の観光鍾乳洞であり、国の天然記念物及び史蹟に指定されている。浸食と陥没作用によってできたカルスト地形と、鍾乳石等の神秘的な景観を有する。古代の壺や弥生時代の住居跡等が残されており、出土品等を納めた博物館も併設されている。



龍河洞

2.4 自然公園等の指定状況

すぐれた自然の風景をできる限り自然のままの姿で保存するとともに、広く一般の人々に保健、休養及び教育等のために利用してもらうことを目的として、「自然公園法」及び「高知県立自然公園条例」に基づく自然公園が指定されている。

物部川流域内には、剣山国定公園、奥物部県立自然公園、龍河洞県立自然公園が指定されている。

表 2.4.1 自然公園の指定状況

区分	名称	面積 (ha)	特別保護 地区(ha)	特別地域 (ha)	普通地域 (ha)	関係市
国定	剣山	2,785	-	2,785	-	香美市
県立	奥物部	10,914	-	-	10,914	香美市
	龍河洞	1,814	-	320	1,494	香美市、香南市

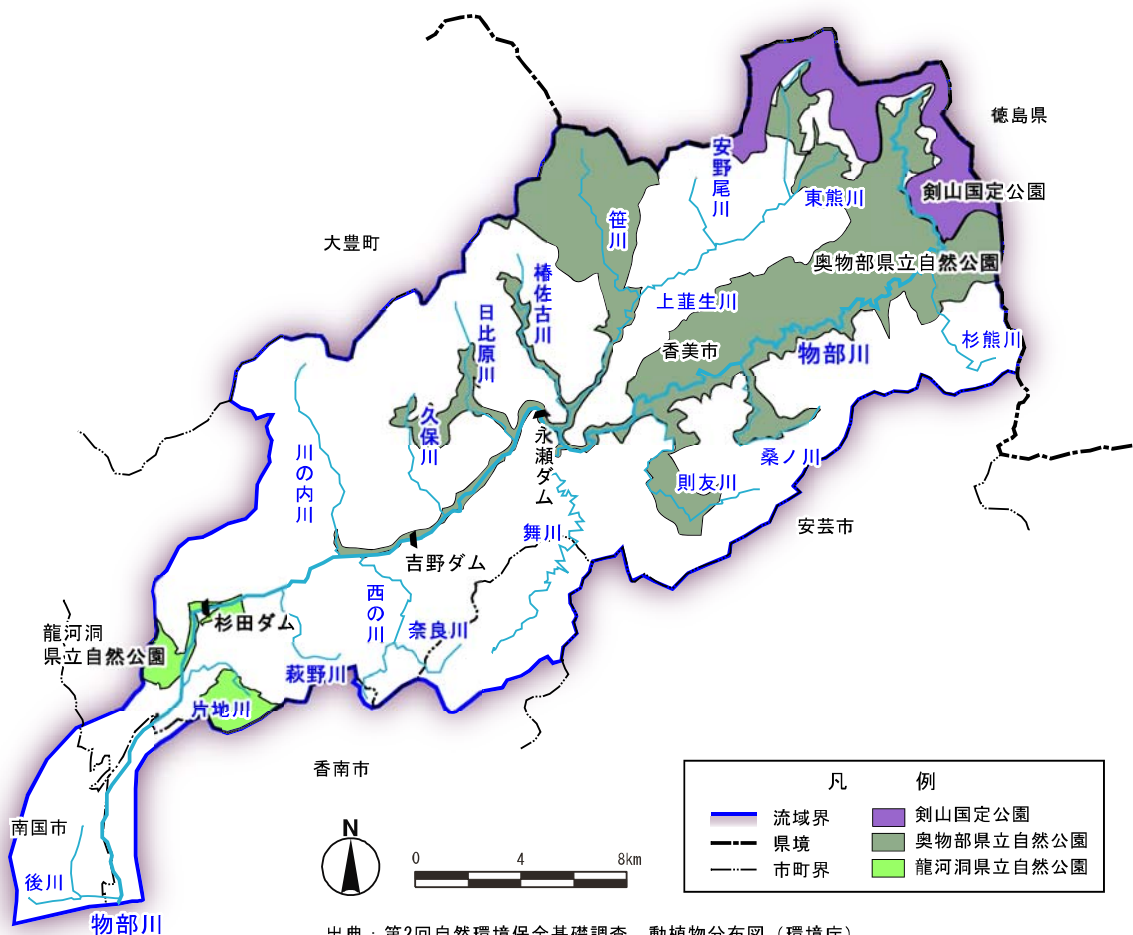


図 2.4.1 自然公園等指定状況